

「都市と交通シナリオスタディ」ワークショップ成果

B班	都市空間のイメージ		都市空間づくりに向けた主な取り組み	空間における市民等の活動
望ましい社会像	域内の交流が促進されるまち	駅前広場の広場化	<ul style="list-style-type: none"> 駅前ロータリーを公園にする そこを起点に国道1号までを広場にする 	<ul style="list-style-type: none"> 広場では多様な人々が多様な活動を行う
		緑の回廊づくり	<ul style="list-style-type: none"> 駅前広場を起点に、国道1号→かがやき通り→立命館大学→びわこ文化公園（龍谷大学含む）を緑の回廊とし、LRT（BRT）で繋ぐ 駅の西側は農業の緑を活かした遊歩道とし、琵琶湖まで歩けるよう整備 	<ul style="list-style-type: none"> 回廊に沿って人の住まいや店舗を連続的に配置 様々な活動が回廊から発信される 週末だけの出店や展示、パフォーマンスなどがフレキシブルにできる 緑の回廊自体が市民の手によって育てられ、設計や運営も市民が行う その活動をきっかけに市民がお互いにつながっていく
		地域の拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> 回廊で囲まれたエリアに複数の拠点を整備 拠点には特別な施設があるのではなく、必要に応じて移動型の施設が集まり、場が形成される 拠点間の移動はオンデマンドで自由度の高いスローなモビリティを促す 	<ul style="list-style-type: none"> 大学のサテライト的な活用をする 地域住民と学生が学びの場を共有
		南草津駅の機能再編	<ul style="list-style-type: none"> 地域の内と外を繋ぐ地点として駅を整備 地域内の拠点とは異なる機能を持たせる 	
		ドローンによる物流	<ul style="list-style-type: none"> 草津JCTの物流拠点を起点に、ドローンなどによる輸送を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 物流トラックがエリア内を走ることは基本的になくなる
望ましくない社会像	（もっとも現状維持社会）	歩道の整備	<ul style="list-style-type: none"> かがやき通りや平野草津線の歩道拡幅事業の実施 街路樹の再整備 歩道100mおきにベンチを配置 	<ul style="list-style-type: none"> 整備された歩道上の滞留空間で過ごす
		親水空間の整備	<ul style="list-style-type: none"> 川・水辺沿いの遊歩道などに親水空間の整備 	
		生活道路の市民管理制度導入	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路をコミュニティで管理する制度の導入 	
		駅周辺の駐車場の撤廃	<ul style="list-style-type: none"> 新築駅近マンションの駐車場撤廃 	
		信号の撤去	<ul style="list-style-type: none"> 可能な交差点からの金豪鬼の撤去 	
		信用乗車の導入	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスでの信用乗車の導入 	
		カーシェアリングの推進	<ul style="list-style-type: none"> 駅前などでのカーシェアリングステーションの設置 	
		新しいモビリティサービスの開始	<ul style="list-style-type: none"> オンデマンドモビリティ、ライドヘイリングなど、新しいモビリティサービスを開始 	
		多様な空き家活用制度の導入	<ul style="list-style-type: none"> 空き家活用の多様性を認める制度の導入 	
開発区域内の義務緩和	<ul style="list-style-type: none"> 開発区域内の公共空地（公園）の確保、駐車場の配置義務などを緩和する制度の導入 			

C班	都市空間のイメージ		都市空間づくりに向けた主な取り組み	空間における市民等の活動
望ましい社会像	脱 自 家 用 車 × 郊 外 分 散 型 都 市	ファーマーズ マーケットの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅を高架にして、スペースを確保する ・ 南北の道路脇にもスペースを設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力していただける農家さんを集める ・ 自分で耕作できる農地を確保する
		駅前の連続的な賑わい創 出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西友の駐車場を立体にして、1階をバスターミナルにする ・ 夜行バスを入れ、プチホテルを設備 ・ 駅→ターミナルを繋げて賑わい創出+空間的な連続性（屋根）の設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前でのんびり過ごせるようになる
		〇〇アンドライドの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 坂の直前となるバス停（若草など）にサイクルアンドライド駐輪場などをつくる ・ ヨーロッパのようにパークアンドライド駐車場 ・ 駅前の駐車場を、政策的に高額にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス停勢圏を広げる ・ 同乗者の1日券が格安で買えるようにして、得できるインセンティブが働く
		LRTorBRTの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両デザインの工夫する ・ トラムとバスの乗り場を分けず、方面別に分け、トラム停留所にバスを乗り入れさせる ・ 運賃は「くさつエコパス」のようなもの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ LRT、BRTの車体形状を気にしない ・ 現金のやり取りを無くす
		水辺の空間整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湖を活かしたアクティビティの整備 ・ 仮設のイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントで提示されたこと・ものをライフスタイルに取り込む
		公共交通機関 の乗り放題	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス・トラムが格安で乗り放題にするため、行政主導で補填を行う ・ 草津市が2社に委託する形にし、主導は草津市が握る ・ 交通税の導入などによる財源の確保 	
		駅から郊外に 行きたくなる ような広告づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人が集まる場所に観光案内所を設置する（例：UDCBK） ・ 看板、ポスターをカッコよくする ・ QRコードをかざすとスマホですぐにわかるシステムの導入 	
望ましくない社会に ならない ために必要な 出来事	駅 周 辺 の 集 約 ・ 利 用 の 巨 大 化 と 自 家 用 車 の 増 加 市 × 都 市 機 能 の 都 市 集 約 型 都	歩行者空間の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者専用空間の整備 ・ 道路から歩道への転換を図る ・ 歩行者天国イベントを多く開催 	
		駅周辺などの自家用車利 用の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南草津駅半径200mは私有車は乗り入れ禁止にする ・ 駅周辺の駐車場の代金を非常に高くする（儲からないことが予想されるので市が運営する） ・ 駅から離れた場所に駅の送迎場所をつくる（国道1号より東、大江霊仙寺線より西）ただし障がい者の方はOKにする ・ 自家用車で駅前に行きづらくする ・ 郊外型店舗を抑制する ・ 駐車場を増やさない 	
		公共交通の再編	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通を行政主導で格段に便利にする 	
		環境・まちづくり への貢献に対する インセンティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境・まちづくりにいいことをする人が得できるような仕組み（様々な手段でインセンティブを働かせる） ・ 小学校で環境教育実施し、未来のことを考えさせる ・ マスコミやインターネットにより、正しい情報を適切に発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりを市民団体を行う

D班	都市空間のイメージ		都市空間づくりに向けた主な取り組み	空間における市民等の活動
望ましい社会像	新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市	ロータリーで屋根つき広場整備	・屋根つきの広場を整備	・ロータリーをいろいろなことに使えるようにする ・イベントなどができる
		駅前全体をシェア市場	・東口と西口でシェアできるものを変える ・東口は知のシェア、西口は生活用品のシェア	
		駅のバリアフリー化	・駅のホームを広くする	・車椅子が使いやすくなる
		駅周辺の活用促進	・電光掲示板で草津市の情報を提供 ・ビルの中にはシェアオフィス ・駅ビルとフェリエと西友が立体的につながり、その間には、あちこちにコミュニティスペースが整備 ・マンションの屋上をみんなが自由に活用できるようにする	
		ミニスマートシティ構想の実現	・駅を出発し、かがやき通りからパナソニック、大学をまわってまた駅に戻ってくる自動運転の循環モノレール	
		ハイパー福祉モデル都市	・介護支援に関わる先進技術を 大学や企業が地域に提供 できる関係をつくる ・ 琵琶湖や公園の自然環境 を活かし、体操・ヨガ等ができる空間づくり	・健康志向にあいまって、自転車の需要が広がる ・なんでも自動になったら、自転車ぐらいしか体を動かすものがなくなる ・家に引きこもらないように、外に出る機会ができ、
		イノベーション創出の拠点	・人だけでなく、車や技術、知の拠点としての南草津	・異なる企業の人たちが交流することで、新しい技術が生まれる
望ましくない社会にならない出来事	まちの消滅に向かう郊外都市	持続的な地域コミュニティの確立	・災害時にも混乱を防ぐ対策（例：外国人の正確な名前、年齢、家族構成、翻訳も簡単にできるように） ・ 西口のロータリー とストリートを使ったみなくさ祭りを続ける ・常に情報が流れているようにする。デジタルサイネージュなどで発信する（パナソニックなどにサイン整備の協力も必要）	・草津市の情報を多くの人が共有できる
		大学・企業の移転防止	・子育て・教育のまちとして、大学や企業と連携した取り組みを強化する（企業での職業体験や大学の出前授業など） ・南草津の 駅前が大学キャンパス を兼ねることができるよう、フェリエのスペースを利用した研究室や会議室 ・他大学の理系キャンパスが高速道路で結ばれていること活かしたリンクージ構想	
		駅前商業施設（フェリエ）の用途再編	・将来、図書館や本屋が必要なくなった時の機能の検討（例：1階は交通、2階以上を生活支援機能とする）	大学、企業、市民で一緒に考える機会を設ける
		駅から伸びるデッキ空間の利用促進	・通過のためだけでなく、いろいろなイベントや屋台を出す ・民間団体が自由に利用できるように規制緩和	